

第2章

施策マネジメントシートによる評価

1 学校教育の充実

第4期芽室町総合計画

政 策	4-1	豊かな心を育む人づくりの推進
施 策	└──	4-1-1 学校教育の充実
主 管 課		学校教育課

2 生涯学習の推進

第4期芽室町総合計画

政 策	4-1	豊かな心を育む人づくりの推進
施 策	└──	4-1-2 生涯学習の推進
主 管 課		社会教育課

3 青少年の健全育成

第4期芽室町総合計画

政 策	4-1	豊かな心を育む人づくりの推進
施 策	└──	4-1-3 青少年の健全育成
主 管 課		社会教育課

4 地域文化の振興

第4期芽室町総合計画

政 策	4-2	交流を通じた魅力ある地域文化の形成
施 策	└──	4-2-1 地域文化の振興
主 管 課		社会教育課

5 スポーツしやすい環境づくり

第4期芽室町総合計画

政 策	4-2	交流を通じた魅力ある地域文化の形成
施 策	└──	4-2-2 スポーツしやすい環境づくり
主 管 課		社会教育課

6 国際・地域間交流の推進

第4期芽室町総合計画

政 策	4-2 交流を通じた魅力ある地域文化の形成
施 策	└── 4-2-3 国際・地域間交流の推進
主 管 課	企画財政課
施策関係課	農林課・社会教育課

施策番号 4-1-1	施策名 学校教育の充実	基本目標 個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり
	主管課 学校教育課	政策名 豊かな心を育む人づくりの推進
	施策関係課	課長名 松浦 智幸
		内線 511

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒	確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、「生きる力」を身に付ける				児童生徒が社会に出たときに自立できる
成果指標	説明	単位	年度(算定時)	28年度	29年度	30年度	
① 「学校生活や授業が楽しい」と思う児童生徒の割合	学校評価	%	89.3	88.5	88.5	90.0	
② 「授業が子どもにとって楽しく分かるように進められている」と思う保護者の割合	学校評価	%	83.6	85.3	85.4	85.0	
③ 毎日朝食を摂っている児童生徒の割合	生活習慣・学習環境等状況調査	%	88.5	88.4	85.7	90.0	
成果指標設定の考え方	①及び②については、各学校の学校評価項目から、類似又は関連する評価項目を参考にするとともに、前期実施計画の実績なども考慮し目標値を設定した。 ③については、前期実施計画では食育の推進を成果指標としていたが、児童生徒の健やかな体の育成からも本施策の成果指標とし、①及び②同様、前期実施計画の実績なども考慮し目標値を設定した。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	934,605	1,238,297
人件数(業務量)	6.1732	6.0677

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	「毎日朝食を摂っている児童生徒の割合」は前年度を下回ったが、他の2項目は前年同様及び上回ったため、総体としては「成果は変わらなかった」とした。
②平成30年度の目標値達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で目標は達成できる ☐ 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①については、各学校の授業改善の継続した取組により目標達成を目指す。 ②は目標値を達成している。 ③については、栄養教諭による食育指導の継続実施や、学校給食の試食などを通して保護者に対して食育の大切さの理解を深めてもらうことにより、目標達成は可能と考える。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	(小学校・中学校)施設維持管理事業 児童生徒支援事業 (小学校・中学校)教材・教具整備事業 学校給食管理運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・学校施設などについては、年次計画に基づき工事・備品購入を行うとともに緊急修繕等の実施により、安心・安全な教育環境の整備に努めた。 ・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒に対しては、各学校の実態を踏まえた上で教育活動指導助手や学校支援員を配置し、個に応じた学習支援を行うとともに、小学校3・4年生の35人以下学級編制のため教育活動指導助手を配置するとともに、平成30年度からは小学校5・6年生へも拡大し実施することとした。 ・芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」実施、食物アレルギー等に対する代替食の提供、栄養教諭による全校全学級の食育指導を実施した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない

E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応と、個別施設毎の長寿命化計画の策定。 ・社会に開かれた教育課程の実現を重視した新学習指導要領(小学校での英語教科化やプログラミング教育など)への対応とともに、地域とともにある学校づくりの推進。 ・町の発達支援システムと連携した特別なニーズに対応した教育の推進のための教育活動指導助手や学校支援員の充実。 ・学校給食(食物アレルギー対応を含む)の提供と食育指導の継続に向けた体制などの継続充実。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	・地域とともにある学校づくりとしてのコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進。 ・大学等奨学金貸付制度や就学援助など教育の機会均等などの確保に向けた施策の充実。 ⇒平成29年度から、連帯保証人の町内在住要件の廃止、通年貸付の実施、貸付者が卒業後芽室町に戻り、一定期間居住等をした場合の一部償還免除制度の創設 ⇒平成29年度から、就学援助の新入学用品費に係る入学前支給を実施

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

○新学習指導要領実施など教育環境の整備に向けた対応	⇒外国語活動・外国語科の推進に向けた英語指導助手の配置や、プログラミング教育等のためのICT教育環境の整備
⇒少人数学級の拡大や発達支援システムと連携した特別支援教育の充実に向けた人員の増員	
○学校施設などの環境整備	⇒長寿命化基本とした老朽化改修と多様なニーズに対応した施設整備
⇒個別施設毎の長寿命化計画の策定	
○学校給食の提供や食育指導に向けた体制の充実	⇒児童生徒数の減少に伴う道教委配置の栄養教諭の減員に伴う対策と体制の充実

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価		A	B	C	D	E
教育活動指導助手の配置などにより、学校教育環境の充実を図っており、計画策定時と比較して前進していると言える。	進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	現在の取組や、今後の新たな取組について、適宜検証を行い、進めていってほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
庁内評価と同じく前進していると評価する	進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●毎日朝食を摂っている児童生徒の割合について成果指標向上の取り組みが必要である。 ●子育て環境に課題のある家庭について把握することが必要である。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した				

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
41	4-1-1	学校教育の 充実	意見	毎日朝食を摂っている児童生徒の割合について成果指標向上の取り組みが必要である。	学校教育課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	学校健康診断実施事業(小・中)ほか	
			対応内容	学校便りや保健室便り、給食便り、参観日、PTAの会議等で、規則正しい生活について家庭での協力を呼び掛けるとともに、栄養教諭による「食の指導」を通じて、朝食を摂ることの重要性を指導しており、今後も継続・充実していく。	
42	4-1-1	学校教育の 充実	意見	子育て環境に課題のある家庭について把握することが必要である。	学校教育課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	児童生徒支援事業ほか	
			対応内容	学校での児童生徒の観察や子育て支援課との連携により、子育て環境に課題のある家庭の把握に努めている。状況によっては、スクールライフアドバイザーによる支援や要保護児童の通報を行っており、今後も継続していく。	

施策番号	施策名	生涯学習の推進	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり		
4-1-2			政策名	豊かな心を育む人づくりの推進		
	主管課	社会教育課	課長名	日下勝祐	内線	517
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
生涯学習の機会や場の提供により、学習意欲に対応した生涯学習環境の充実を図ります。		町民	生涯にわたって学習できる環境の整備を行う				町民一人ひとりが自己の充実を図り、心豊かに暮らすことができるまちづくり
成果指標	説明	単位	28年度(前年度)	28年度	29年度	30年度	
① 図書館資料年間貸出数	図書館調べ	冊	184,137	169,498	164,255	190,000	
② 1年間に生涯学習(学習経験)を行った町民の割合	住民意識調査	%	55.9	56.4	53.5	60.0	
③ 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	35.7	39.8	39.1	40.0	
成果指標設定の考え方	①年間図書資料貸出数を策定時目標である184,137冊から段階的に190,000冊までの増を目指す。 ②・③公共施設以外で行われる学習機会の利用者も想定され、実態の把握は困難であるが、それぞれ60%・40%以上の目標値を維持する。なお、③について町・村は30%以上が多い。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	102,293	105,184
人件費(人時数)	2.7593	2.6599

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	成果指標①③は前年度と同程度 成果指標②はやや減少 → 柏樹学園生の減少、成人教育活動の縮小が主な要因
②平成30年度の目標値達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で目標は達成できる ☐ 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・学校図書館貸出数を含めた場合は目標数値はクリア → 開館30周年事業や学校での出張図書館など、館外奉仕事業の展開充実により、貸出数の増加や成果指標③の達成は可能 ・成人教育活動や公民館、図書館講座の内容充実により成果指標②及び③の目標達成は可能
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	家庭教育学級活動支援事業 図書・視聴覚資料の貸出・保存事業 図書館ボランティアサークル活動支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	成人教育活動運営事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	・家庭教育学級の継続支援とともに、より実践的な勉強会として「めむろ家庭教育講演会」を開催し家庭教育の充実を図った。 ・図書館では、これまでの特別展示の工夫などの取組を継続するとともに、ボランティアとの協働により開催している図書館まつりの実施が町民に浸透し来場者数も安定し、事務事業の充実に繋がった。 ・成人教育活動については、参加者数の減少等により、一部の活動で縮小、未実施となるものがあり、今後のニーズ把握や事業見直しが急務である。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A:実現した

B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した

D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない

E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	- 生涯学習の概念である「いつでも・どこでも・誰でも」自由に学べる学習環境の整備が求められるている。 →学習形態の多様化などに対応するために住民のニーズにともなう事業の検討。 →高齢者学級学習カリキュラムの随時見直しの検討。 - 社会教育施設の設備や備品の計画的整備、また、老朽化等への対応として、長寿命化計画と計画的な施設整備を推進。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	図書館の夏季高温時のエアコン空調の設置や冬季間の室温上昇と読書環境充実のための施設整備。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① 生涯学習機会の充実

- ・成人教育の事業内容を再検討。
- ・高齢者学級学習カリキュラムの内容検討。図書館・体育講座などとの連携。

課題② 社会教育施設の改善が必要

- ・中央公民館、集団研修施設「かつこう」の施設・備品の計画的な更新整備。
- ・図書館のエアコン空調などの施設整備。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	図書館や学校図書の貸し出し環境は充実しており、生涯学習のメニューについても適宜、見直しを行うことで、計画策定時よりも充実していると評価する。		A	B	C	D	E
進捗結果					○		
今後の取組に対する意見	学校図書の充実によって、子どもの図書館利用が少なくなっていることや、近年は図書館以外でも書籍を読む機会が確保できていることから、貸出数で成果を図ることが難しくなっている。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価と同じく前進していると評価する。		A	B	C	D	E
進捗結果					○		
今後の取組に対する意見	芽室町は生涯学習に取り組んでいる人が多いと感じる。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

施策番号 4-1-3	施策名 青少年の健全育成	基本目標 政策的 課長名 内線	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり 豊かな心を育む人づくりの推進	517
	主管課 社会教育課	課長名 日下勝祐	内線	517
	施策関係課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果
青少年が、社会のルールを身につけることが出来るような体験学習への参加や団体の連携などを促進し、健全育成をすすめます。		町民		団体行動や社会生活を学び、社会のルールを身につける			自ら判断する力や責任感が身につけられる
成果指標	説明	単位	27年度(規定時)	28年度	29年度	30年度	
① 芽室町の小中学生は基本的ルールを身につけていると感じる町民の割合	住民意識調査	%	40.7	58.5	56.7	45.0	
②							
③							
成果指標設定の考え方	平成25年度実績で計画策定時の目標に到達しているが、青少年の健全育成に関わることから、引き続き45%以上を維持する。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	7,856	7,236
人件費(業務量)	0.7977	1.1315

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	成果指標は前年度と同程度 →青少年健全育成協議会をはじめとする関係機関の連携による事業展開が要因
②平成30年度の目標値達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で目標は達成できる ☐ 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・目標値をクリア →「寺子屋めむろ」「わんぱくキャンプ」「通学合宿めむろ塾」など、青少年事業や、青少年健全育成協議会の町民集会の工夫開催の継続
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	少年教育活動運営事業 青少年健全育成協議会支援事業 地域子ども会育成連絡協議会 芽室町PTA連合会活動支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・青少年健全育成のための関係機関の連携強化 →青少年健全育成協議会では、PTA連合会と教育委員会とともに「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」を策定し、周知、啓発活動を実施した。 ・基本的生活習慣など青少年の健全育成 →「通学合宿めむろ塾」や夏休みや冬休みに開催している「寺子屋めむろ」など、団体生活や体験学習を通し、発達段階に応じた生活習慣や社会ルールを身につける事業を展開が施策の成果向上に繋がった。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない

E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ・地域子供会活動では、休会となる町内会が増加 《今後の予測》 ・子どもの減少、育成指導者のなり手不足に伴う活動団体数の減少→複数町内会など広域的な活動の在り方について検討が必要
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① ネットトラブル等青少年の健全育成	・青少年健全育成協議会では、PTA連合会と教育委員会とともに「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」を策定。今後の周知、啓発活動など取組みの強化。
課題② 基本的な生活習慣や多様な体験活動の推進	・青少年の教育活動(わんぱくキャンプ、通学合宿など)で、基本的な生活習慣とともに食育の観点も取り入れた事業の充実。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価		A	B	C	D	E
進捗結果	「寺子屋めむろ」「わんぱくキャンプ」「通学合宿めむろ塾」などの取組が充実しており、積極的な参加があることから、取組の成果が現れていると言える。			○		
今後の取組に対する意見	「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」のような、時流や社会情勢を捉えた取組が今後も必要になる。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
進捗結果	「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」などをつくっており、計画策定時と比較して前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」のように、広く取り組んでもらえると家庭での教育にとって、非常にありがたい。今後継続して話題になるような機会を作って貰えると良い。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

施策番号 421	施策名 地域文化の振興	基本目標 個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり
	主管課 社会教育課	政策名 交流を通じた魅力ある地域文化の形成
	施策関係課	課長名 日下勝祐
		内線 517

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
地域における文化活動への参加を促進するとともに、文化財などの活用をすすめます。		町民	・文化活動に参加してもらう ・文化活動が盛んになる				心が豊かになる
成果指標	説明	単位	23年度(前年度)	28年度	29年度	30年度	
① 地域文化活動への参加者数	社会教育課調べ	人	727	599	558	900	
② 参加できる文化活動の数	社会教育課調べ	回	16	21	16	16	
③ 文化活動がしやすいと感じる町民の割合	住民意識調査	%	37.7	40.1	42.2	40.0	
成果指標設定の考え方		①町民文化展への出展者数、メモオロ太鼓保存会会員数、文化協会加盟人数について段階的に増加を目指す。 ②文化協会加盟団体主催の発表会、公民館を会場とする展示会の回数を計画策定時の水準を維持する。 ③文化活動がしやすいと感じる町民の割合を平成25年度の実績に基づき40パーセント台を維持する。					

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	21,947	24,709
人件費(業務量)	0.7759	0.7116

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価 (前年度比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	成果指標①②は前年度より低下 →文化協会会員数の減少 成果指標③は前年度を上回る
②平成30年度の目標値達成見込み	☐ 現状の取り組みの延長で目標は達成できる ☐ 難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☒ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・地域文化活動への参加者数は文化協会加盟人数を指標の一部としているが、加盟団体の減少及会員数減少しているため、目標値のクリアは厳しい現状。 →財政的支援などを含めた文化協会の在り方を検討していくことで会員数の増加となるよう努める。 ・公民館講座受講生や個人活動のサークル化を進めるとともに多様化するニーズへの対応が求められる。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町民文化展開催事業 文化団体活動支援事業 芸術鑑賞会等開催事業 芸術・文化振興事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・町民との連携による文化芸術活動の充実 →芸術鑑賞会等開催事業は、町民を含めた文化芸術鑑賞会内容検討会議を立ち上げ、鑑賞内容の選定など運営に携わっていただき、鑑賞した参加者からの好評を得ることができ、施策目標の達成に寄与した。 ・児童生徒の文化芸術振興 →全国全道大会出場支援や芸術鑑賞支援は、文化活動がしやすいと感じる町民の割合への貢献度が高い。 ・文化活動への多様化するニーズに対応と、団体会員の減少、指導者、後継者の確保が大きな課題となっている。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない

E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く環境》 ・芸術鑑賞会の開催は、今後も町民検討会議の意向を踏まえた事業展開。 ・文化協会会員の高齢化や加盟団体数や会員数が減少傾向にあり、個々の文化に対するニーズが多様化し、個々の活動が町外に広がる可能性があり、広域的な情報交換や連携が必要。 《今後の予測》 ・団体活動の指導者、後継者不足が顕著であり、対応策が急務である。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・文化団体が公共施設を利用する際の使用料の無料化についての意見がある。 ・公民館で利用できるカラオケ機器の導入要望がある。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① 文化芸術の振興充実の必要	・団体活動の指導者、後継者不足に対する対応策の検討。 ・町民による文化芸術鑑賞会内容検討会議の意向を踏まえた予算を含めた事業展開。 ・文化協会の支援とともに、社会教育施設の使用料の在り方検討。 ・指定管理者と連携した公民館事業の充実。
課題② 文化施設の施設設備備品の充実	・中央公民館及びふるさと歴史館の長寿命化計画と施設修繕や備品等の計画的な整備。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価		A	B	C	D	E
児童生徒の文化芸術振興への支援や、町民参加型の事業展開など、計画策定時と比較して前進していると言える。	進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	スポーツ・文化共に指導者の確保が大きな課題となる。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
数値には表れていないが、各種サークル活動など、芽室町は住民活動が盛んと感じる。	進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●社会教育課で把握している数値を成果指標とすると、実際よりも文化活動が盛んではない印象を受ける。 ●町民活動支援センターの把握している数値を成果指標としても良いのではないか。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

施策番号 4-2-2	施策名 スポーツしやすい環境づくり	基本目標 個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり
主管課 社会教育課	政策名 交流を通じた魅力ある地域文化の形成	課長名 日下勝祐
施策関係課		内線 517

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果
町民がいつでも気軽に自由にスポーツができる環境づくりを進めます。		町民		いつでも気軽に自由にスポーツができるようにする			健康で明るいまちづくりを実現する
成果指標	説明	単位	23年度(基準時)	28年度	29年度	30年度	
① スポーツしやすい環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	63.3	61.0	70.8	70.0	
② スポーツ指導員数	指導員数	人	113	97	100	126	
町内の体育施設利用者数	利用実績	人/年	174,075	171,340	177,639	198,000	
③ 高校生以下のゲートボール競技人口	社会教育課調べ(競技人口)	人	9	11	13	20	
成果指標設定の考え方	①健康で明るいまちづくりの推進から、スポーツしやすい環境づくりを進め70%を維持する。 ②スポーツしやすい環境への向上を目指しているが、施設利用者については、前期計画策定時点の水準を目標とする。指導員数については、特にスポーツ少年団の指導者の増加を見込む。 ③発祥の地としてGBの普及啓発を行うこととしており、青少年層の競技者を継続的に確保していく。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	207,773	175,029
人口数(業務用)	1.7134	1.7710

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	成果指標はすべて向上という結果となったが、スポーツ指導員の数は、本計画策定時と比べて減少している。
②平成30年度の目標値達成見込み	☐ 現状の取り組みの延長で目標は達成できる ☒ 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・スポーツしやすい環境や施設利用者数は適切な施設管理により増加させる →プールや体育館における講座の充実で指標の向上を図る ・青少年のゲートボール競技人口増加のための事業展開 →指標は少年団員数であるが、一昨年度から学校と連携し、各小学校で体験授業を展開し、その結果、生徒の保護者がチームを作って活動する事例があるほか、子どもゲートボールフェスティバルへの参加者増にも繋がっており、継続した取り組みで目標達成は可能
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	チャレンジデー実施事業 ゲートボール普及活動事業 各種大会出場支援事業 スポーツ少年団運営支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・スポーツしやすい環境づくりの充実 →体育施設では、台風被害に伴い西運動広場にサッカー場を開設した。また、各体育団体・少年団活動への助成、更には少年団活動のバス借上げ支援や全国・全道大会出場支援を継続することで、スポーツしやすい環境であると思う町民の割合の向上に繋がっている。 ・発祥の地のスポーツであるゲートボール振興 →全町大会への高校生チームの参加や発祥の地杯全国GB大会に連動した合宿事業の実施、寺子屋めむるや各小学校の授業でのGB体験授業などを通じ、今後の青少年のゲートボール競技人口の増加のため事業展開を図り事務事業の充実に繋がった。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A:実現した

B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した

D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない

E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・町民の健康づくりや運動指向の高まりと、個々の運動実践の機会の増加指向により、より安全な施設や機器類の整備がより多く求められてきている。 ・温水プールや屋外体育施設の老朽化が進み、施設備品や機器類に対する更新時期に到達しており、計画的な整備を推進する必要がある。 ・ゲートボールの競技人口が減少→発祥の地として特に青少年や成年層に対する普及を進めていく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・総合体育館や屋外体育施設の施設備品・機器類の早期の更新の要望。 ・温水プールの早期施設改築。また、議会からは温水プールの新設を含む施設整備の提言書あり。 ・台風により被災した体育施設(野球場・パークゴルフ場)の復旧整備の希望あり。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① 体育施設の整備の充実が必要
・温水プールは、学校教育活動や高齢者等の健康増進などに主眼に置いた建替え整備の推進。
・老朽化している屋外体育施設の長寿命化を見据えた整備。
課題② 青少年のスポーツ環境の充実
・関係機関との連携を図った継続的な取組の推進。
・スポーツ少年団の指導者養成。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	スポーツ環境の整備や、子どもがゲートボールに触れる機会の創出など、計画策定時と比較して前進していると言える。			○		
今後の取組に対する意見	ボランティアで指導者を確保することが困難になっており、指導者不足は今後益々大きな課題となる。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	庁内評価と同じく前進していると評価する			○		
今後の取組に対する意見	指導者不足の要因には、申し込みにくさもあると思うので、前段階で講習などがあると良い。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した				

施策番号 4-2-3	施策名 国際・地域間交流の推進	基本目標 個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり
	主 管 課 企画財政課	政策名 交流を通じた魅力ある地域文化の形成
	施策関係課 農林課・社会教育課	課長名 佐 野 寿 行
		内 線 220

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
友好都市との交流を通して得られる情報をまちづくりに活かします。		町民 交流都市の住民	友好都市との交流に参加し、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる				交流を通じた情報の連携によるまちづくりをすすめる
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	28年度	29年度	30年度	
① 他都市(トレーシー・広尾・揖斐川)との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	住民意識調査	%	トレーシー 61.4 広尾町 44.1 揖斐川町46.9	トレーシー 72.1 広尾町 49.4 揖斐川町52.6	トレーシー 71.5 広尾町 48.2 揖斐川町50.7	トレーシー 65.0 広尾町 50.0 揖斐川町50.0	
② 行政が行っている交流事業・行事の数	企画財政課調べ	回/年	16	14	15	16	
③							
成果指標 設定の考え方	①トレーシー市については前期実施計画と同様に65%を、揖斐川町と広尾町は後期実施計画策定時に約45%であったことから50%を目標とする。 ②後期計画策定時の交流行事を維持する目標とし16回とする。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	12,771	17,728
人件費(業務費)	0.6222	0.9815

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価 (前年度比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	成果指標①②ともに前年度と大きく変化していないため、成果は変わらなかったとした。
②平成30年度の目標値達成見込み	☐ 現状の取り組みの延長で目標は達成できる ☒ 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	トレーシー市、揖斐川町の認知度は目標値をクリアしており、民間団体による交流も期待できる。また、広尾町については、平成28年度が周年であったが、災害対応などにより事業を中止せざるを得なかった。平成29年度において広尾町を幹事とした共同物販事業を実施した。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	国際交流推進事業 中学生国際交流事業 揖斐川町交流推進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	●揖斐川町との交流が10周年を記念し、「JAめむる」と「JAいび川」による連携協定が締結され、それぞれの直売所などにおいて生産物の販売を始め、JA女性部同士の連携も進められている。 ●広尾町との交流30周年を記念し、札幌市内において共同物販を行った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A:実現した

B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した

D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない

E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 社会・経済状況の変化により、町として多額な費用をかけて交流という状況にはない。 《今後の予測》 認知度向上に向けて、交流内容などの周知手法を検討することが必要。 地域間交流は人的交流から経済交流に発展させるのが一般的であることから、3地域ともに交流の熟度を高めていく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	特になし。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① 地域間交流の深化	国際交流・地域間交流ともに、人材交流・物産交流・経済交流などに結び付けていくことが大きな目標であるが、各交流とも事業が定例化しているなかで、JA同士の協力関係が構築され、今後の経済交流が期待される。
課題② 地方創生(産業雇用プロジェクト)の推進	ふるさと交流センターにおける山村留学生の受け入れは安定しているが、農業実習生の受け入れ実績がここ数年ない反面、農業従事者の人手不足が課題となっており、様々な業種に対応した就労支援体制の構築が必要である。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	友好都市の認知度も高まっており、計画策定時と比較して前進していると言える。			○		
今後の取組に対する意見	地域間交流が経済交流に発展することが期待される。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	庁内評価と同じく前進していると評価する。			○		
今後の取組に対する意見	近年、交流事業への参加希望が減っているのではないかと感じる。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した				

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
43	4-1-3	青少年の健全育成	意見	「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」は、家庭で話題になるような機会を継続して作ってもらいたい。	社会教育課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	青少年健全育成協議会支援事業、家庭教育学級活動支援事業	
			対応内容	両事業において、保護者にルールの説明を行い、家庭での話し合いを持っていただけるよう啓発活動を行います。	
44	4-2-1	地域文化の振興	意見	社会教育課で把握している数値を成果指標とすると、実際よりも文化活動が盛んではない印象を受ける。町民活動支援センターの把握している数値を成果指標としても良いのではないか。	社会教育課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名		
			対応内容	所管の事務事業では対応できませんが、総合計画の成果指標において対応します。	
45	4-2-2	スポーツしやすい環境づくり	意見	指導者不足の要因には、申し込みにくさもあると思うので、前段階で講習などがあると良い。	社会教育課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	スポーツ少年団活動支援事業、スポーツ人材強化・育成事業	
			対応内容	スポーツ少年団本部を通じて日本スポーツ少年団の認定員養成講習会等への参加費助成を継続するとともに、町内のスポーツ活動に従事する指導者等を対象とした研修会の実施や地域指導者登録制度の周知を行い、制度の充実や活用を図りながら、スポーツ分野で活躍できる指導者の育成に努めます。	
46	4-2-3	国際・地域間交流の推進	意見	近年、交流事業への参加希望が減っているのではないか。	社会企画財政課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	少年教育活動運営事業、中学生交際交流事業	
			対応内容	募集の際に、前年度に参加した児童生徒の感想などを募集チラシに掲載します。また、内容についても適時見直しを行い、興味関心を持ってもらえるようにします。	